

## 水質汚濁に係る農薬登録保留基準の設定に関する資料

## フルチアニル

## I. 評価対象農薬の概要

## 1. 物質概要

化学名	(Z) - 2 - [ 2 - フルオロ - 5 - (トリフルオロメチル) フェニルチオ ] - 2 - [ 3 - (2 - メトキシフェニル) - 1, 3 - チアゾリジン - 2 - イリデン ] アセトニトリル				
分子式	C <sub>19</sub> H <sub>14</sub> F <sub>4</sub> N <sub>2</sub> OS <sub>2</sub>	分子量	426.5	CAS NO.	958647-10-4
構造式					

## 2. 作用機構等

フルチアニルは、チアゾリジン環にシアノメチレン基を有する殺菌剤であり、その作用機構は明らかでないが、既存剤に対する耐性菌株等に対しても有効で、また形態学的観察により菌の感染行動への影響は既存剤と異なることから、既存剤とは異なる新規の作用機序を有すると考えられる。本邦では未登録である。

製剤は乳剤が、適用作物は野菜及び花きとして、登録申請されている。

### 3. 各種物性等

外観・臭気	白色結晶性粉末、無臭	土壌吸着係数	$K_{p^{ads}_{OC}} = 21,000 - 79,000$ ( $25 \pm 2^\circ\text{C}$ )
融点	178 - 179°C	オクタノール /水分配係数	$\log P_{ow} = 2.9$ ( $25^\circ\text{C}$ )
沸点	299.1°C (減圧条件下、2.53 kPa) 293°C付近で気化 (大気圧条件下) 304°C付近で分解 (大気圧条件下)	生物濃縮性	—
蒸気圧	$<1.3 \times 10^{-5}$ Pa ( $25^\circ\text{C}$ ) $<1.7 \times 10^{-5}$ Pa ( $30^\circ\text{C}$ )	密度	1.5 g/cm <sup>3</sup> ( $20^\circ\text{C}$ )
加水分解性	半減期 分解せず (pH4、7、及び9、 $50^\circ\text{C}$ )	水溶解度	0.0079 mg/L ( $20^\circ\text{C}$ )
水中光分解性	半減期 1.1-1.2 日 (日本春季太陽光換算 3.6-3.9 日) (滅菌自然水、 $25 \pm 2^\circ\text{C}$ 、 $25.3 \text{ W/m}^2$ 、300-400 nm) 1.0 日 (日本春季太陽光換算 3.3 日) (緩衝液、 $25 \pm 2^\circ\text{C}$ 、 $25.3 \text{ W/m}^2$ 、300-400 nm)		

## II. 安全性評価

許容一日摂取量 (ADI)	2.4 mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成 24 年 1 月 26 日付けで、フルチアニルの ADI を 2.4 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値はラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験における無毒性量 249 mg/kg体重/日を安全係数100で除して設定された。</p>	

### Ⅲ. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

非水田農薬として、水濁 PEC が最も高くなる使用方法について表のパラメーターを用いて水濁 PEC を算出する。

#### 1. 非水田使用時の水濁 PEC

使用方法		各パラメーターの値	
剤 型	5%乳剤	$I$ : 単回の農薬使用量（有効成分 g /ha）	30
使用場面	非水田	$N_{app}$ : 総使用回数（回）	2
適用作物	野菜	$A_p$ : 農薬使用面積（ha）	37.5
農薬使用量	300 L/10a <sup>1)</sup>		
総使用回数	2 回		
地上防除/航空防除	地 上		
施 用 法	散 布		

<sup>1)</sup> 希釈液（希釈倍数 5,000 倍）として。

#### 2. 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC <sub>Tier1</sub> (mg/L)
水田使用時	適用なし
非水田使用時	0.000001021 …
うち地表流出寄与分	0.000001018 …
うち河川ドリフト寄与分	0.000000003 …
合 計 <sup>1)</sup>	0.000001021 … ≒ <u>0.0000010 (mg/L)</u>

<sup>1)</sup> 水濁 PEC の値は有効数字 2 桁とし、3 桁目を四捨五入して算出した。

## IV. 総合評価

### 1. 水質汚濁に係る登録保留基準値（案）

公共用水域の水中における予測濃度 に対する基準値	<b>6.3 mg/L</b>
以下の算出式により登録保留基準値を算出した。 <sup>1)</sup>	
2.4 (mg/kg 体重/日) ADI	× 53.3 (kg) 平均体重
× 0.1 10%配分	/ 2 (L/人/日) 飲料水摂取量
= 6.39...(mg/L)	

<sup>1)</sup> 登録保留基準値は有効数字 2 桁（ADI の有効数字桁数）とし、3 桁目を切り捨てて算出した。

#### <参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 <sup>1)</sup>	なし
水質要監視項目 <sup>2)</sup>	なし
水質管理目標設定項目 <sup>3)</sup>	なし
ゴルフ場暫定指導指針 <sup>4)</sup>	なし
WHO 飲料水水質ガイドライン <sup>5)</sup>	なし

<sup>1)</sup> 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

<sup>2)</sup> 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

<sup>3)</sup> 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値。

<sup>4)</sup> 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針の一部改定について」（平成 22 年 9 月 29 日付け環水大土第 100929001 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された指針値。

<sup>5)</sup> Guidelines for drinking-water quality, third edition, incorporating first and second addenda

### 2. リスク評価

水濁  $PEC_{Tier1} = 0.0000010$  (mg/L)であり、登録保留基準値 6.3 (mg/L)を超えないことを確認した。

(参考) 食品経由の農薬理論最大摂取量と対 ADI 比

農薬理論最大摂取量(mg/人/日) <sup>1)</sup>	対 ADI 比 (%) <sup>2)</sup>
0.0047	0.0

<sup>1)</sup> 食品経由の農薬理論最大摂取量は、平成 24 年 3 月 19 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会における食品群毎の基準値案を基に算出した理論最大摂取量を示す。

<sup>2)</sup> 平均体重 53.3 kg で計算